

政府主催 2016年度情報化月間記念式典を開催

情報化促進に貢献した個人・企業等を表彰

政府主催の「2016年度情報化月間記念式典」が10月3日、東京・千代田区の丸ビルホールで開催された。

我が国の健全な情報化を推進するために、通商産業省（現・経済産業省）をはじめとする関係省庁が連携し、1972年に始まった情報化月間は、今年で45年目。記念式典には、経済産業省から井原巧大臣政務官、総務省から福岡徹総務審議官、文部科学省から田野瀬太道大臣政務官、国土交通省から大野泰正大臣政務官が出席した。

表彰に先立ち、井原巧経済産業大臣政務官は次のように挨拶した。

「政府は、名目GDP600兆円に向けた成長戦略、『日本再興戦略2016』を策定いたしました。その最大の鍵となるのが、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットであり、第四次産業革命の実現です。この実現には、ITの利活用により、既存の枠組みを変換して新たな成長市場を構築し、付加価値を向上させることが重要です。表彰される皆様は、IoTを活用した新しい農業モデルの展開や、データ分析を用いた需要予測など、意欲的な取り組みを推進しておられます。また、第四次産業革命の波は、若者に世界で活躍するチャンスを与えます。皆さまの取り組みが、我が国の国際競争力の向上や持続的な成長を促すことを期待しております」

続いて情報化促進貢献表彰が行われ、受賞者を代表して、独立行政法人情報処理推進機構前理事長藤江一正氏が、「政府の成長戦略において先進的な取り組みが提言され、IT人材の強化を基軸に日本経済の情報化を促進して、確かな未来を



挨拶する井原巧
経済産業大臣政務官

拓いていこうとしています。これからの情報技術はあらゆる産業分野において重要な手段となり、国民の生活に影響していくものです。そのような中、社会インフラの担い手として今後とも情報化を促進していく覚悟です」と謝辞を述べた。

この後U-22プログラミングコンテストの入賞者の発表と表彰が行われ、最後に経済産業省商務情報政策局情報処理振興課長滝澤豪氏による「経済産業省のIT施策について」の講演で幕を閉じた。